

第33回 こども班会「コペルくん

News



子どもたちに音楽を届けるプロジェクト

3月27日(土)のコペルくんは、「子どもたちに音楽を届けるプロジェクト」を開催。こども15人・おとな17人が参加しました。一般財団法人「100万人のクラシックライブ」のプロジェクトです。

プロの演奏家の生の音楽が聴けるというので、スタッフは何ヶ月も前から心待ちにしていました。当日は、ピアノの小野文さんとヴァイオリンの井谷珠綺さん、ピアニストでもある吉岡麻梨さんがスタッフとして参加してくれました。始まる前、会場の様子やピアノなど機材を見ながらプログラムを手直ししてくれ、子どもたちに楽しんでもらおうと一生懸命に考えてくれていることがよくわかりました。

おなじみの「さんぽ」から始まり、「ガボット」「ユーモレスク」と続き、「G線上のアリア」は、もう一台のピアノでハーブシコードの音色を出してチェンバロとヴァイオリンのデュオになりました。ペダルが壊れて使えないと思っていた電子ピアノも役に立ってうれしかったです。「バイオリンの弓は何でできているか?」「ヴィヴァルディの「四季」の「春」には、どんな生き物が出てくるか?」などクイズも交えながら、「プレリュードとアレグロ」と続けました。「ラデッキー行進曲」では、こどもが指揮者になり、以前コペルくんで作った手作りのカスタネットを鳴らして、みんなで奏でました。自分で作ったカスタネットを音楽に合わせて楽しそうに叩くこどもたち、指揮者になったこどもも自分の指揮に合わせて速くなったり遅くなったり、大きくなったり小さくなったりする演奏にうれしそうです。最後の「チャルダッシュ」も、ちゃんと音楽に合わせてカスタネットを鳴らしました。アンコールは大好きな「鬼滅の刃」から「紅蓮華」を。こどもたちは身体を揺らせてノリノリです。ヴァイオリンを間近で見せてもらったり、音楽の解説をしてもらって、生の音楽を存分に楽しんだ1時間でした。

「生の音楽はすばらしい!」「ホンモノはやっぱりいい!」



手作りカスタネット

※この事業は大阪市ボランティア活動振興基金の助成を受けて実施しています